学校番号	408

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ⅰ	単位数	３単位	年次	１年次
使用教科書	新編　数学Ⅰ　（数研出版）						
副教材等	3TRIAL　数学Ⅰ+A（数研出版） 新課程　パラレルノート数学Ⅰ（数研出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では、説明をよく聞いて課題を理解し、解決の方法を自ら考え解決していきます。また、解決の過程を振り返り、よりよい解決の方法を考え、発表したり議論したりします。
・学習の定着を図るため、出された宿題は必ず取り組み、反復練習を行いましょう。
・問題集の問題は教科書の補充として自主的に解き、答えだけでなく途中式や考え方も書き、自分がどこでつまずいたのかを調べましょう。
・分からないところをそのままにせず、まずは自分で解決しようとしてください。解決できない場合は担当者に質問しましょう。また、質問するときには、どこの部分がどうわからないのか具体的に聞きましょう。
・授業中の課題および家庭学習における課題は、定期的に提出してもらいます。最後まであきらめずに取り組みましょう。

２　学習の到達目標

【知識及び技能】
数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】
数学を活用して事象を論理的に考察する力，数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】
数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え，数学を生活や学習に生かそうとする態度，問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度

観点の趣旨	数と式，図形と計量，二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	命題の条件や結論に着目し，数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力，図形の構成要素間の関係に着目し，図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を表，式，グラフを相互に関連付けて考察する力，社会の事象などから設定した問題について，データの散らばりや変量間の関係などに着目し，適切な手法を選択して分析を行い，問題を解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	第1章　数と式	第１節　式の計算 1　多項式の加法と減法 2　多項式の乗法 3　因数分解	a:整式の加法・減法を理解し，計算できる。指数法則や乗法公式の意味を理解し，展開ができる。因数分解の公式を理解し，計算できる。 b:既に学習した計算の方法と関連付けることができる。また、整式を 1 つの文字に着目して整理したり，１つの文字に置き換えたりするなどして，いろいろな式の見方をすることができる。 c:整式の加法・減法，乗法公式や因数分解などに関心を持ち，目的に応じて式の変形をしようとする。	定期テスト 確認テスト	定期テスト ワークシート レポート	ワークシート 観察 レポート
		第２節　実数 4　実数 5　根号を含む式の計算	a:数を実数まで拡張することの意義を理解している。分数が有限小数や循環小数で表される仕組みを理解している。絶対値の意味を理解している。根号を含む式の計算や有理化ができる。	定期テスト 確認テスト	定期テスト ワークシート レポート	ワークシート 観察 レポート

			b:数を拡張してきた過程やその意義，数の四則演算の可能性について考察することができる。 c:数の体系を実数まで拡張する意義に気付くとともに，数を拡張していく過程に関心を持ち，考察しようとする。			
		第３節　１次不等式 6　不等式の性質 7　１次不等式 8　絶対値を含む方程式・不等式	a:不等式の解の意味や不等式の性質を理解している。不等式の性質を利用して，不等式の解を求めることができる。 b:不等式の性質を基にして，1 次不等式の解き方を考察することができる。 c:数量の関係を不等式で表すことのよさをとらえようとする。日常の事象や社会の事象に関連した課題の解決に，不等式を活用しようとする。	定期テスト 確認テスト	定期テスト ワークシート レポート	ワークシート 観察 レポート
2	第3章 2次関数	第１節　２次関数とグラフ 1　関数とグラフ 2　２次関数のグラフ	a:関数のグラフの意味を理解している。2 次関数のグラフの軸と頂点の座標の方程式を求めることができる。 y=ax^2+bx+c を y=a(x-p)^2+q の形に変形することができる。 b:2 つの数量の関係を表，式，グラフなどを用いて考察することができる。2 次関数の式とグラフについて，グラフを用いて多面的に考察できる c:具体的な事象の中にある 2 つの数量の関係に関心をもつ。2 次関数とそのグラフについて関心を持ち，調べようとする。	定期テスト 確認テスト	定期テスト ワークシート レポート	ワークシート 観察 レポート
		第２節　２次関数の値の変化 3　２次関数の最大・最小 4　２次関数決定	a:2 次関数の最大値，最小値とその求め方について理解し，基本的な知識を身に付けている。2 次関数のグラフや式を用いて，2 次関数の最大値，最小値を求めることができる。 b: 2 次関数の値の変化の様子について，グラフを用いて考察することができる。 c:2 次関数の値の変化の様子につ	定期テスト 確認テスト	定期テスト ワークシート レポート	ワークシート 観察 レポート

			いてグラフを用いて考察しようとする。具体的な事象の考察に2次関数の最大・最小の考えを活用しようとする。			
		第3節　2次方程式と2次不等式 5　2次方程式 6　2次関数のグラフと x 軸との共有点 7　2次不等式	a:2次方程式とその解の意味を理解している。因数分解や解の公式を用いて 2 次方程式を解くことができる。2次方程式の実数解の個数と判別式 D の符号の関係について理解している。2次関数のグラフとx軸との共有点について，そのx座標を求めることができる。2次関数のグラフとx軸との共有点の個数は，判別式Dの符号によって分類されることを理解し，共有点の個数を求めることができる。いろいろな場合について，2次不等式の解を求めることができる。 b:2 次方程式の実数解の個数を 2 次方程式の解の公式を導き出す過程から考察することができる。2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係を理解し，2次不等式の解を 2 次関数のグラフを用いて考察することができる。 c:因数分解を用いて 2 次方程式の解を求めることのよさをとらえようとする。解の公式に関心を持ち，2次方程式の実数解や，実数解の個数を調べることに活用しようとする具体的な事象の考察に 2 次不等式を活用しようとする。	定期テスト 確認テスト	定期テスト ワークシート レポート	ワークシート 観察 レポート
3	第4章　図形と計量	第1節　三角比 1　三角比 2　三角比の相互関係 3　三角比の拡張	a: 正弦，余弦および正接を直角三角形の辺の比と角との関係として理解し，基礎的な知識を身に付けている。直角三角形を用いて考えられる図形の計量の問題を，三角比の記号を用いて表し，解決することができる。 鈍角まで拡張した三角比の意義を理解している。鈍角の三角比の値を求めることができる。三角比	定期テスト 確認テスト	定期テスト ワークシート レポート	ワークシート 観察 レポート

			の相互関係について理解し，与えられた三角比の値から残りの三角比の値を求めることができる。 座標平面上の半円を用いて，三角比の値から角の大きさを求めることができる。 b:図形の相似の考えを用いて，直角三角形の辺の比を角との関係でとらえることができる。具体的な事象について三角比を使って考察することができる。 座標平面上の半円を用いて，鈍角まで拡張した三角比について考察することができる。 c:三角比に関心を持ち，直角三角形の計量に用いようとする。三角比の相互関係に関心を持ち，直角三角形や三平方の定理を用いて調べようとする。 鈍角の三角比を考えることに関心を持ち，鋭角の三角比との関係について考察しようとする。			
		第２節　三角形への応用 ４　正弦定理 ５　余弦定理 ６　正弦定理と余弦定理の応用 ７　三角形の面積 ８　空間図形への応用	a:正弦定理・余弦定理を三角形の決定条件と関連づけて理解し，基礎的な知識を身に付けている。三角形の決定条件が与えられたとき，三角形の残りの要素を，正弦定理や余弦定理を用いて求めることができる。 b:正弦定理・余弦定理を導く過程を考察することができる。三角形の面積を，三角比を用いて表す過程を考察することができる。 c:正弦定理・余弦定理が図形の計量の考察に有用であることに気付き，活用しようとする。三角比を用いて三角形の面積を求めることができることに気付き，活用しようとする。	定期テスト 確認テスト	定期テスト ワークシート レポート	ワークシート 観察 レポート
	第５章　デ	第１節　データの整理と分析 １　データの整理 ２　データの代表値 ３　データの散らばり	a:データを表やグラフに整理することができる。代表値としての平均値，中央値，最頻値を理解し，	定期テスト 確認テスト	定期テスト ワークシート レポート	ワークシート 観察 レポート

		と四分位数 4　分散と標準偏差 5　2 つの変量の間の関係	求めることができる。四分位数，四分位範囲，分散，および標準偏差などの用語の意味を理解し，それぞれ求めることができる。箱ひげ図を用いてデータの散らばりを表すことができる b:整理した表，図，値などの意味を理解し，そのデータの特性や法則性を的確にとらえることができる。 c: 観察　レポートや調査・実験を通して得られた，自然・環境・経済などの様々なデータから散らばり具合を整理して全体の傾向をつかもうとする。			
		第２節　データの相関 1　データの相関 2　相関係数	a:散布図および相関係数の意味を理解し，相関係数を求めることができる。散布図から相関関係を読み取ることができる。相関関係と因果関係の違いを理解している。 b:散布図と相関係数から 2 つの変量の間の相関関係を考察することができる。 c:目的に応じてデータを収集し，散布図に表したり相関係数を求めたりして，その特性や法則性を調べようとする。	定期テスト 確認テスト	定期テスト ワークシート レポート	ワークシート 観察 レポート
		第３節　統計的な見方 1　統計的探究プロセス 2　仮説検定の考え方	a:統計的探究プロセスのモデルである PPDAC サイクルの過程を理解している。PPDAC サイクルを用いて調査を計画し，これまで学んだ方法を用いてデータを分析することができる。 b:目的に応じて複数の種類のデータを収集し，適切なグラフや手法などを選択して分析することができる。分析結果から，データの傾向を把握して，事象の特徴を表現できる。仮説検定を用いて，主張の妥当性について，実験などを通して判断したり，批判的に考察したりすることができる。 c:生活で見られる課題について，	定期テスト 確認テスト	定期テスト ワークシート レポート	ワークシート 観察 レポート

			統計的な見方を通して調査し，分析しようとする。調査の理由や調査方法，分析結果，結論という一連の流れを，分かりやすくまとめようとする。分析結果から，新たな課題を見いだそうとする。			

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度